



(一社) ひょうご若者自立支援センター
しまたに たくお
 代表理事 嶋谷 拓雄 さん

働くことに悩みを抱えている方に向きあいサポートする、ひょうご若者自立支援センターの嶋谷代表理事に、サポート活動についてお話を伺いました。

「働きたす力」を引き出し

「職場定着」へ

「働きたい」若者を後押し

当支援センターは、厚生労働省の若者支援事業「地域若者サポートステーション」の委託を受けて運営しています。

「自信が持てず、一步を踏み出せない」「人と話すことが苦手」などの悩みを抱えた15歳から49歳までの方や、ご家族の方を対象としたカウンセリングの体制をとり、自信を持って就職できるようサポートを行っていて、全国に177カ所あり、当センターは東播2市2町を含む9市3町を管轄しています。

働く意欲はあるのにそれがうまくいかないという悩みを抱えている方は多く、近年では発達障害や心の病気なども増えて目に見えない生きづらさの中で日々を過ごしています。例えば手に職を持っていても面接がうまくできず、その能力を活かせていないかたなどもあります。

私たちがサポートする方たちはこれといった支援も無いなかで、どうしたらいいのかわからず、当センターの門を叩いてきます。私たちはそういった方々と事業所を繋ぐ役目を担っています。

職場体験↓就職へ、そして貴重な人材に

当センターに登録された方とは、専門家とともに面接を行い、こういったことが苦手なかなど、その方が抱えている事情や悩みをしっかりと聞き取り、その方の目指す方向を決めていきます。

そして事業所へご紹介し、まずは職場体験という形で仕事に就いてもらいます。事業所に金銭的な負担は無く、私たちも面接から体験までフォローしながら、就職定着へと進めていきます。職業体験は職業理解を深めたり、自分の新たな一面を発見できる貴重な機会です。これまでの事例からいけば、マルチタスクよりもシングルタスクでコツコツ、黙々とするのが向いている方が多く、仕事とうまくマッチすれば、

事業所にとっても戦力となるはずですが、彼らは決していい加減に仕事に取り組んでいるわけではありません。仕事に意欲を持ち、真摯に取り組もうとしています。これまでも彼らの誠実さ、真面目さが認められて正式採用へとつながった事例もあります。雇用する側の不安は当然だと思いますが、私たちも何度も面接を重ね、働くために必要な力を身に付けるセミナーなども受け、「この人なら」と思う方を推薦していきますし、ミスマッチの部分は何がいけないのかを整理、改善するようにしています。

「生きづらさ」からの脱却を

私たちサポステは、地域の企業と連携し「働きたす力」「生きづらさ」を抱えた人たちに自立への一步を踏み出せる機会を作り、働くことへの「肯定感」を持ってもらいたいと考えています。

SDGsの目標の8番目に「働きがいも経済成長も」という項目があり、全てのの人に働くチャンスを与え、持続可能な経済成長や働きがいのある人間らしい雇用を生み出す社会の実現が言われています。そのためには失業率の改善は必要不可欠です。どうか事業所の皆さんには私たちの活動にご理解をいただき、未来ある若者の自立支援にご協力をお願いいたします。